

令和8年3月24日

山武市長 松下 浩明 様

山武市市民提案型交流のまちづくり推進事業審査会
会長 石井 博行

山武市市民提案型交流のまちづくり推進事業審査会
令和7年度 事業成果（事業評価）報告書

令和7年度山武市市民提案型まちづくり推進事業審査会の審査結果を次のとおり報告いたします。

記

- 1 審査委員 10名
- 2 審査方法 実績報告書による書類審査及び成果報告会による発表
- 3 審査団体 チャレンジ部門1団体
- 4 審査講評 各事業実施団体からの成果報告については、概ね事業目的に沿った適正な活動であったと認められます。
各団体の事業評価内容は、別紙のとおりです。

<チャレンジ部門>

■ NPO 法人みんなの居場所ありのまま山武支部

今年度は、作付面積を広げて種から稲を育て、田植えをし、稲刈り・乾燥・脱穀など、米作りという丁寧な作業が何度も必要な活動を皆で体験することにより、参加者が食べ物の生産過程や苦勞を知り、環境問題や食へのありがたみなど自己形成に必要な大切な学びの場となった。

「田んぼ活動」を通じて、不登校などの子どもたちや地域の高齢者と世代間交流を図りながら、社会との接点を与えた取り組みについて高く評価します。

自然農法や上総掘り等の技術は、伝える人がいなくなれば無くなるので、若い世代に知ってもらう事は、重要な取り組みです。また、居場所づくりとしては、ウッドデッキの設置予定が災害などの諸般の事情から予定通りに進まず、残念な部分もありますが、リクエストに応じてシーソー・鉄棒の遊具を作るなど、特に子どもたちにとってすばらしい体験になった。継続的にコミュニケーションの場を作られ、子どもからお年寄りまで、それぞれのライフステージに応じた居場所を演出されたことは評価できます。

事業経費については、人的経費（報償費・人件費・旅費）が7割強となっており、当該事業による補助金が終了した後も引き続き活動を継続するために、工夫が必要かと思われます。

応援いただける人材の確保や広報活動をし、ワークショップの参加者を増やすことや、参加費の単価を上げる等の対策で自立した収入を確保して、引き続き活動が継続されるよう期待しています。